

1-4 地域公共交通網の形成に関する基本方針

(1) 糸満市都市マスタープランとの整合

①公共交通の位置付け

〈糸満市の将来像〉

つながりが生み出す新しいまちのカタチ

～ネットワークによる都市機能の再編に向けて～

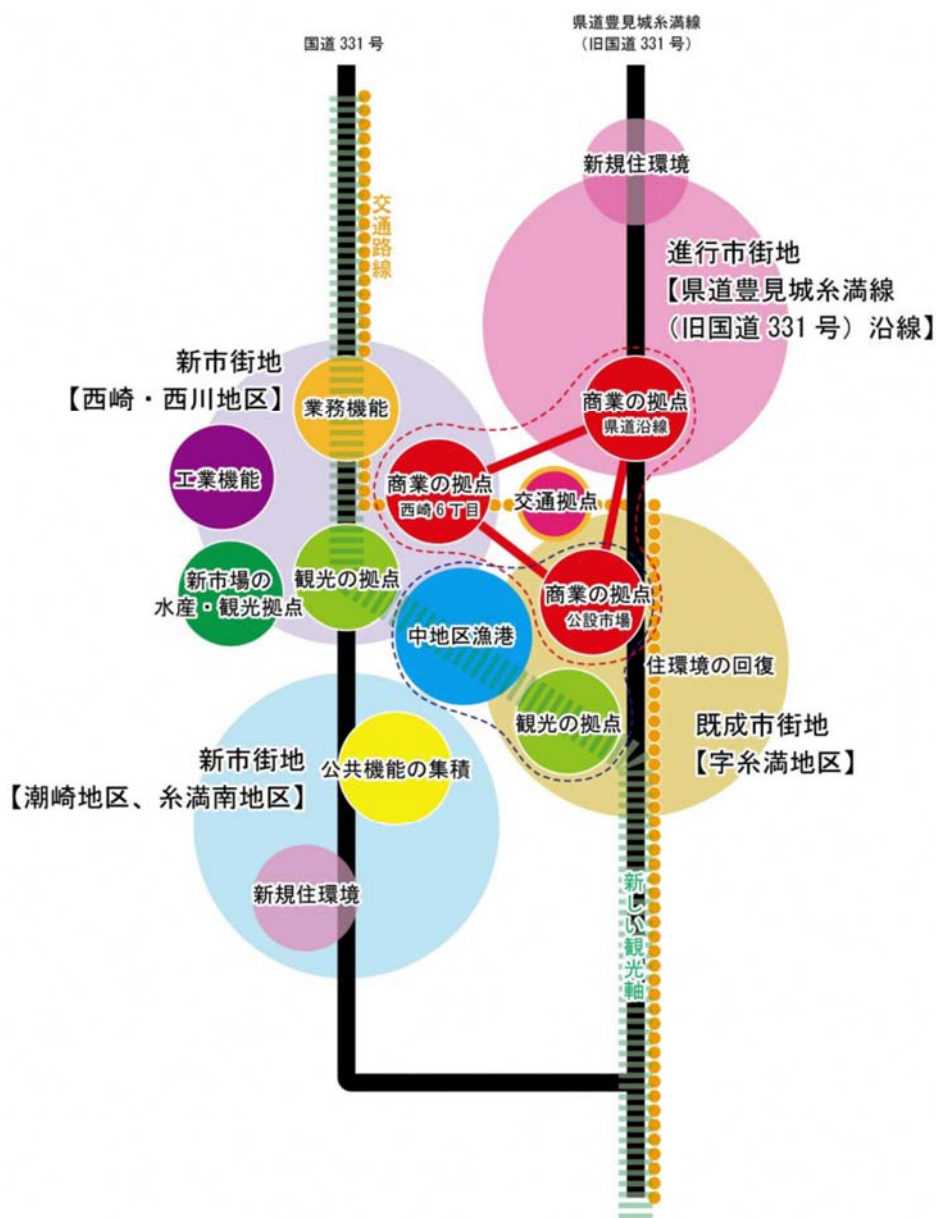
〈市全域に関わるその他の主要課題〉

(1) 高齢化に備えた福祉のまちづくりの推進

・ 公共施設のユニバーサルデザイン化

・ **移動しやすい交通環境の確保**

②将来の都市構造イメージ



③都市整備の方針と将来都市構造図

Ⅲ.将来の都市構造と都市像－ 2. 将来の都市像－（2）将来の都市像 ※一部抜粋

- ・農村部においても、既存集落の全てに対して、一律の施策展開を図るのではなく、整備済みの集落間幹線道や新しい公共交通の導入を駆使し、拠点集落への機能集約を行うことで、ネットワーク強化による生活利便性の向上を目指すといった視点が必要になってきていると考えられます

Ⅳ.全体構想 都市整備の方針－ 3. 道路・交通〈基本的考え方〉※一部抜粋

- ・少子高齢化社会への対応、交通渋滞の緩和、交通に起因する環境負荷の低減等を目的として、自動車交通への依存を軽減するためにも、**長期的には那覇から豊見城そして糸満に至る南部の新交通システムの導入を検討**する必要があります

〈整備の方針〉

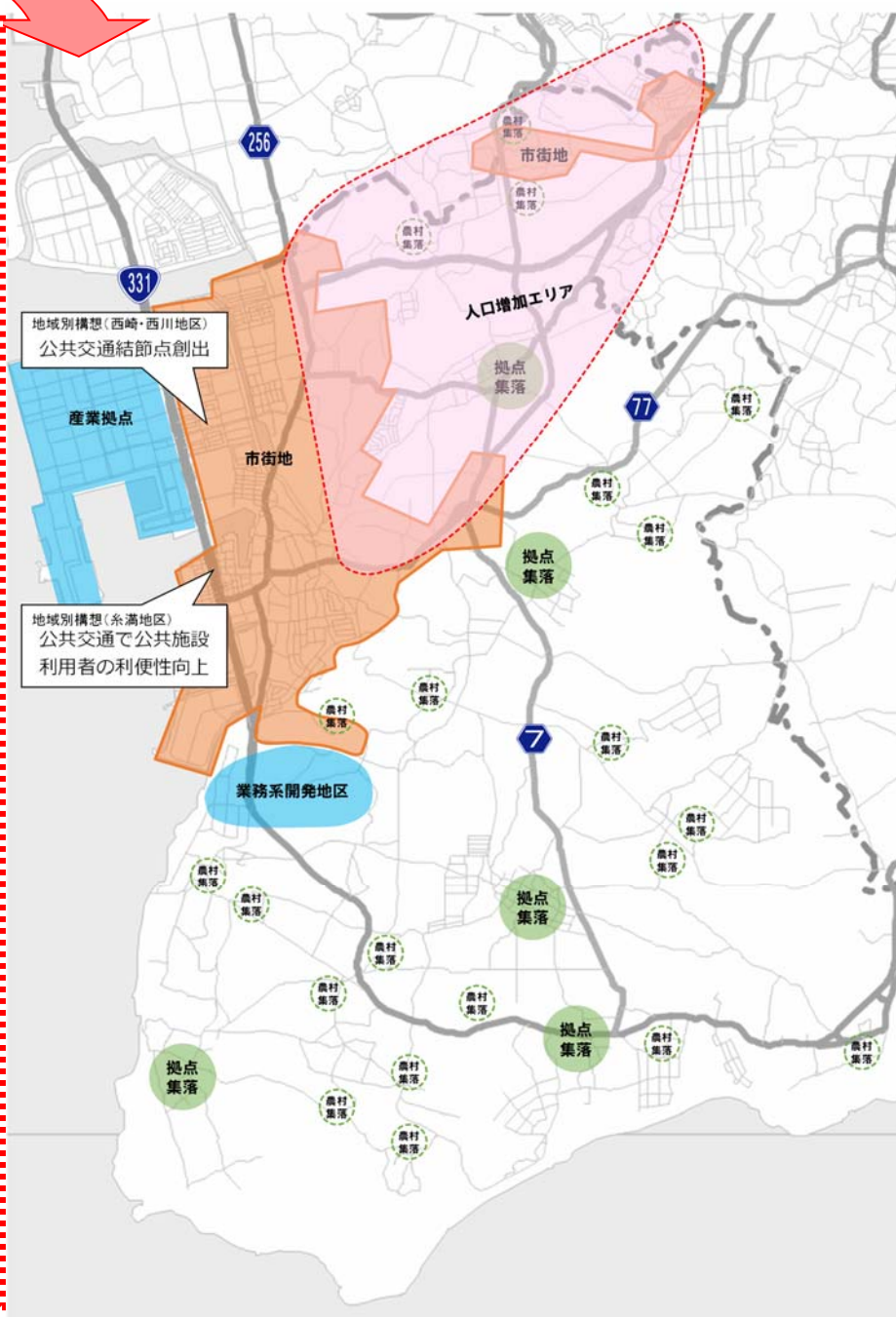
●公共交通機関

- ・既存のバス交通の路線網及び運行回数の充実及び見直しを促進します
- ・公共輸送機関の定時、定速、大量輸送を実現するために、鉄軌道やモノレールからのフィーダー交通システムとなるBRTやLRT等の新交通システムの導入についても今後検討します
- ・公共交通機能やパークアンドライドなどの交通結節点の検討を行います
- ・市域内交通に関しては、実証実験・試験運行を踏まえた交通ネットワークの構築を目指します

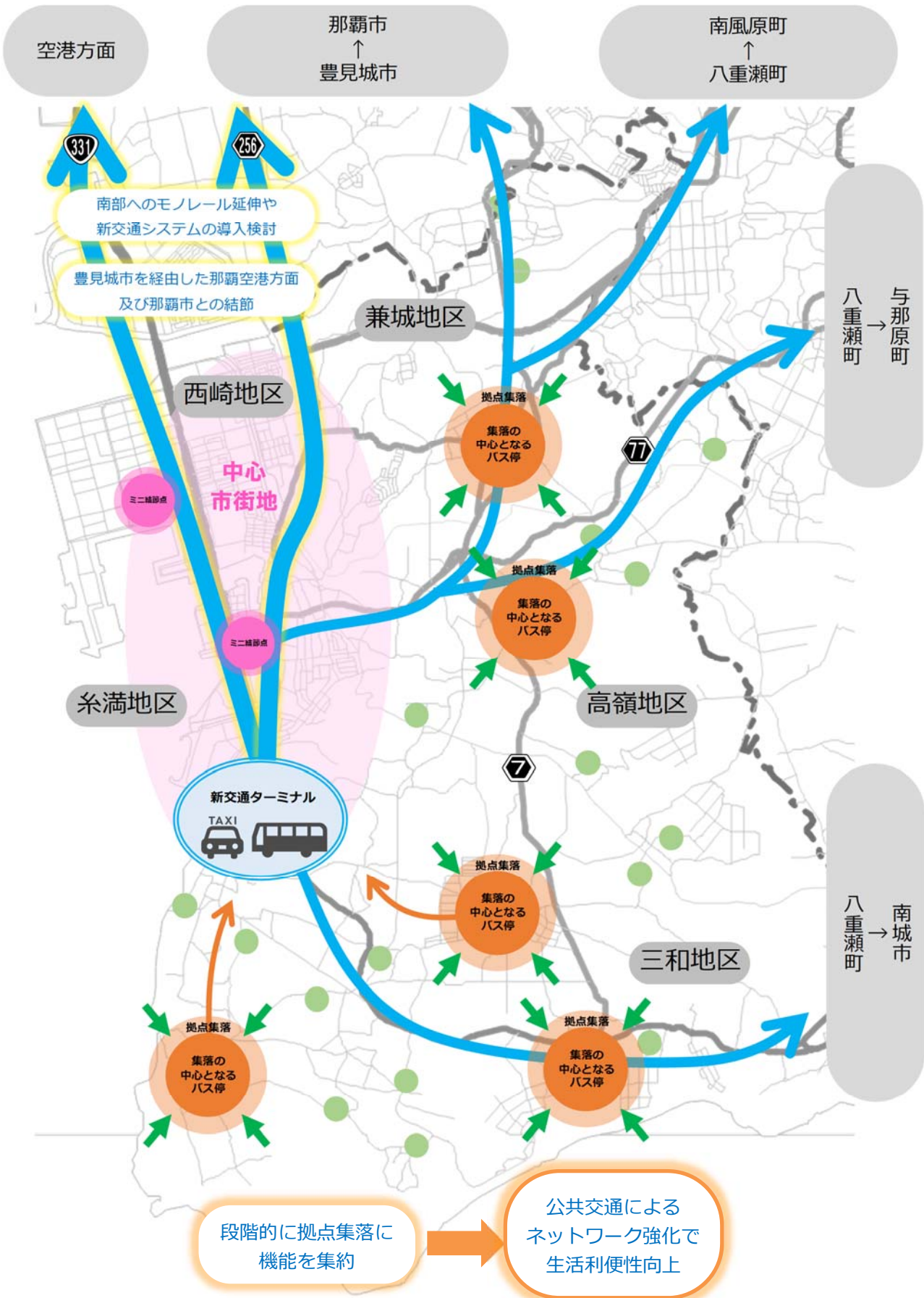
●環境や健康への配慮

※一部抜粋

- ・新交通システムの検討により、渋滞の緩和、環境保全、安全性の確保、インフラの有効活用、さらには個人への電気自動車の普及支援等により安全で環境にやさしい交通社会の構築を図ります



④都市マスタープランと連動した将来ネットワーク形成イメージ



（２）地域が目指すべき将来像と取組の方向性

糸満市における公共交通に求められる役割と現状の問題点や課題、まちづくりの方向性と目標を踏まえ、基本方針として、「地域が目指すべき将来像」と「取組の方向性」を下記のとおり設定しました。

【 地域が目指すべき将来像 】（糸満市都市マスタープランより）

つながりが生み出す新しいまちのカタチ

【 取組の方向性 】

- ・すべての人にやさしい公共交通網の形成
- ・地域特性と移動需要に応じた多様な移動交通手段の整備
- ・まちづくりと整合性のとれた公共交通の形成と活性化
- ・市の活力向上及び持続的発展に資する公共交通の整備
- ・地域、事業者、行政の協働による、効率的で持続可能な公共交通の実現

体系図

上位関連計画における公共交通の位置づけ

● 沖縄らしい優しい社会、強くしなやかな自立型経済を構築していくために必要不可欠なもの
沖縄県総合交通体系基本計画（H24. 6月）

● ネットワーク強化による生活利便性の向上
糸満市都市マスタープラン（H30. 9月）

● 地域の移動手段の確保
第2次糸満市地域福祉計画
第4次糸満市地域福祉活動計画（H30. 3月）

● 高齢者の移動手段
高齢者福祉計画及び介護保険事業計画（H30. 3月）

● 地域の暮らしを支える手段
第4次糸満市総合計画後期基本計画（H28. 3月）

● 交通ネットワークを充実し通勤事情のハンデ解消による移住・定住の促進
糸満市人口ビジョン・総合戦略（H28. 3月）

● 観光客の受け入れ環境の改善
糸満市観光振興基本計画（H28. 3月）

公共交通の役割と問題点やニーズ

都市間連携

- ・ 国道331号バイパスの開通により那覇市への交通アクセスが飛躍的に向上したが、バス路線化がされていない為、充分な利便性向上が図られていません
- ・ 市外に移動する市民ニーズとして「路線の見直し」「運賃の値下げ」「増便」「定時・定速性」が挙げられており、幹線への新公共交通システム導入が求められています
- ・ 市内から市外へ通学する高校生は、学校の登下校の時間に合わせた増便を望んでいます
- ・ バスの待ち時間を快適に過ごせる乗り継ぎ拠点等の環境整備が求められています

地域間連携

- ・ 公共交通を維持するための市の負担額が増加傾向となっています
- ・ いとちゃんmini（デマンド交通）の利用状況や市民アンケート結果から市内の移動需要をみると、人の動き（時間、場所、目的、同行人数）が分散しており、路線バスのルートでは、移動需要をカバーできていません
- ・ いとちゃんmini（デマンド交通）のバス停（市内165箇所）増加により、運行効率が低下しています
- ・ 地域内を移動する際の路線バスのサービス水準が低い状況です
- ・ いとちゃんmini（デマンド交通）は、利用者増加に伴い、予約をお断りするケースが増えています
- ・ 市民全体では、移動したいときに移動ができない割合は5%ですが、公共交通を利用している人に限ると、27%が移動できていません
- ・ 市民アンケートを見ると、地域間連携強化を求める声が多くなっています

交通弱者の移動手段

- ・ 今後も高齢化の進展が予想されるなか、高齢者等の交通弱者が増加していくことが見込まれ、市民の日常生活に密着した移動手段を確保していく必要性は高まっています
- ・ 他地域に比べて、三和地区等の市南部の地域は、路線バスのサービス水準が低い状況です
- ・ プーゲンビレア号を運行する協力企業が減り、持続可能性に懸念があります
- ・ いとちゃんmini（デマンド交通）は、利用者増加に伴い、予約をお断りするケースが増えています

観光客の移動手段

- ・ 糸満市を訪れる観光客の公共交通利用意向は51.1%あるものの、利用率が低い状況です
- ・ 那覇空港等、糸満バスターミナル以北から訪れる観光客が南部観光資源を周遊する場合、一度乗り換えとなることから、待合環境の整備が求められています
- ・ いとちゃんmini（デマンド交通）は、利用者増加に伴い、予約をお断りするケースが増えています

課題

市民の移動需要に沿った公共交通網の形成と交通拠点の整備

中心市街地と集落を結ぶ持続可能な公共交通網の整備

交通弱者にやさしい移動手段の確保

地域、事業者、行政の協働による公共交通を支える体制づくり

観光客にやさしい公共交通と結節点の整備

まちづくりと連携し、移動需要の変化を踏まえた公共交通網の形成

取組の方向性

すべての人にやさしい公共交通網の形成

地域特性と移動需要に応じた多様な移動交通手段の整備

まちづくりと整合性のとれた公共交通の形成と活性化

市の活力向上及び持続的発展に資する公共交通の整備

地域、事業者、行政の協働による、効率的で持続可能な公共交通の実現